

地域農林経済学会ニューズレター

The Association for Regional Agricultural and Forestry Economics

2018. 6. 15 第 15 号

編集・発行 地域農林経済学会 <http://a-rafe.org/2/0>

【学会事務局】〒602-8048 京都市上京区下立売通小川東入 中西印刷株式会社学会部内
TEL: 075-415-3661 FAX: 075-415-3662 E-mail: arfe@nacos.com

目次

1. 『農林業問題研究』第 54 巻第 2 号（第 210 号）の発刊案内1
 - 1) 目次
 - 2) 編集後記
2. 国際ワークショップ報告2
3. 2018 年度近畿支部大会のご案内4
4. 学会賞推薦締切の延長5

1. 『農林業問題研究』第 54 巻第 2 号（第 210 号）の発刊案内

（*J-STAGE 上では、7 月初旬より閲覧可能の予定。閲覧方法は 2 頁をご参照ください。）

1) 目次

<研究論文>

地域おこし協力隊のリアリティ・ショックと克服過程 柴崎浩平・中塚雅也

<個別報告論文>

A Study of Sustainability in Local Agriculture and the Seed Supply System: A Case Study of the
Indigenous Crop Tef in Ethiopia Mitsuyuki Tomiyoshi and Yoshiaki Nishikawa

交通空白地でのコ・ガバナンスの形成における課題

—山間部での自家用有償旅客運送による地域主体交通を事例に— 衛藤彬史

モザンビーク北部高地における新たなダイズ作付体系の導入可能性 小出淳司・山田隆一

<書評>

小川真如著『水稻の飼料利用の展開構造』 千田雅之

立川雅司著『遺伝子組換え作物をめぐる「共存」—EU における政策と言説—』 工藤春代

荒井 聡著『米政策改革による水田農業の変貌と集落営農—兼業農業地帯・岐阜からのアプローチ—』 藤井吉隆

島根大学・寧夏大学国際共同研究所編集『中国農村における持続可能な地域づくり—中国西部学術ネットワークからの報告—』 胡 柏

2) 編集後記

『農林業問題研究』投稿規程および個別報告論文投稿要領が、平成30年4月14日付で、改正されました。改正された『農林業問題研究』投稿規程は、既に適用されています。改正された個別報告論文投稿要領は、第68回地域農林経済学会大会（東京農業大学大会）の報告論文から適用されます。

改正のポイントは以下の3点です。第1に、英語論文のサマリーが、和文から英文に改正されました。本学会誌の国際化のためには、和文サマリーでは不都合です。なぜなら、サマリーとは、潜在的読者が、その論文が何について書かれ、なぜ読まなければならないか、を知るためのものです。これを機に、英語論文を積極的に投稿していただけるようお願いしています。

第2に、個別報告論文の掲載料が値下げされました。また、個別報告優秀賞受賞者には、無料にする権利が与えられることになりました。学生会員など若手研究者を意識し、投稿への負担軽減と

ともに、研究の活性化を意識した改正です。

第3に、投稿原稿の審査について、原則3回までとし、それまでに採用に至らない場合は不採用とする、としました。これまでも、原則3回として運用してきましたが、それを明文化しました。審査員は、第1回目の審査で、問題点を洗い出します。その後、2回ある修正機会で、その問題点をクリアーすることが求められます。

さて、編集委員会は、現在、2017年度個別報告論文の編集作業の最中です。投稿論文は36本（昨年度30本）ありました。第1回目の審査が終わった時点で、受理されたのは、本号に掲載された3本だけです。また、審査員の判断が分かれ、第3査読に回った論文が15本もありました。審査員が丁寧に読んでくれている証です。また、編集委員会も、全ての論文に目を通し、問題点を洗い出します。学会誌は学会の顔です。今後も、論文の質を担保することを大前提に、編集作業を進めていくつもりです。(F)

オンラインでの本学会誌の閲覧方法

地域農林経済学会のホームページ (<http://a-rafe.org/2/0>) から、「学会誌」→「農林業問題研究 J-STAGE」→「農林業問題研究」または“Journal of Rural Problems”をクリックすると、J-Stageの本誌サイトに飛ぶことができます。(J-STAGEは独立行政法人科学技術振興機構(JST)が構築した「科学技術情報発信・流通総合システム」のサイトです)。

2. 国際ワークショップ報告

1. はじめに

地域農林経済学会主催の国際ワークショップが、3月20日(火)に京都大学で開催されました。これは本学会の国際化の一助とするため、とくに若手研究者の英語による研究報告の場を増やすことを目的に企画されたものです。1月中旬から公募を行い、先着順により以下の8名の方に報告を依頼しました。ワークショップには36名の参加があり、活発な議論が行われました。昼休みには、地域農林経済学会「若手の会」による特別セミナー“Consultation for Oral Presentation in International Conference”が開催され、英語論文の執

筆、英文誌への投稿に関する情報交換が行われました。

2. 各報告の概要

第1報告：Malek, Mohammad Abdul（京都大学・BRAC）“The impact of system of rice intensification: Evidence from a large scale two-period randomized field experiments”は、バングラデシュで実施されたSRIの効果に関する研究報告である。処置効果分析の結果は、農家に対するトレーニングが、SRIの採用や米の反収・利潤などを増加させる効果をもつことを示しています。

第 2 報告 : Mutaqin, Dadang Jainal (名古屋大学) “Determinants of farmers’ decision on taking coping risk mechanisms in rural West Java”は、天災に対する農家の対応策に関する研究報告である。「事前の対策」は、リスク回避度や所得水準が高く、過去に被災経験をもち、主観的割引率が低い場合に採られやすいこと、また多くの農家が、親類からの援助や自己資産の売却を「事後の対策」として示されていることが示された。

第 3 報告 : Phanith, Chou (名古屋大学) “Capturing the value of non-timber forest products (NFTPs) from incentives for forest conservation: A case of Phnom Prich Wildlife Sanctuary, Cambodia”は、カンボジアの自然保護区における森林保護活動に関する研究報告である。世帯データを用いた計量分析は、木材販売から得られる所得が高い生産者ほど、資源保全的な行動をとり、森林パトロール活動へも積極的に参加する傾向が強いことを示している。

第 4 報告 : Mahama, Tiah Abdul-Kabiru and Maharjan, Keshav Lall (広島大学) “The impact of smallholder farmers’ knowledge of climate change on adoption of various agronomic practices”は、気象や植生に関する農家知識と採択される農法の関係を扱った計量分析である。干ばつの頻度を認識している農家は、栽培面積を拡大し、単年作物から永年作物へ転換する確率が高いが、気象変化に関する正確な知識は、改良品種の採用に有意な影響を与えていないことが示された。

第 5 報告 : Maharjan, Shree Kumar and Maharjan, Keshav Lall (広島大学) “Research methodologies on climate change adaptation especially focusing on agriculture sector”は、気候変動に対する生産者行動に関する文献を整理した報告である。研究の焦点や研究者の問題関心により、多様な研究手法が用いられること、また定性的な分析が多いことが指摘された。

第 6 報告 : Matsumoto, Kyoko, Ritphring, Sompratana, Kiguchi, Masashi, and Oki, Taikan (東京大学他) “Research on determinants and issues of community-based adaptation to climate change in rural Thailand”は、タイの農山漁村地域を対象とした気象変動に対する共同体の取り組みに関するプロジェクト研究の中間報告である。

第 7 報告 : Wang, Longkui (東北大学) “The effects of rural-to-urban migration on poverty reduction in ethnic poverty-stricken areas of China”は、少数民族が居住する中国の農村を対象として、出稼ぎが貧困削減に与える影響を扱った研究報告である。分析結果は、出稼ぎが貧困の削減や所得の上昇に貢献していること、また、成人労働者の割合や農地の肥沃度が、貧困削減や所得形成に関係していることが示された。

第 8 報告 : Fukui, Seiichi, Wakamatsu, Hiroki, Takashino, Nina, and Miwa, Kana (京都大学他) “Willingness to pay and cost off micro health insurance in Cambodia: a latent class analysis”では、計量的な手法を用いて、小口医療保険に対する需要が推定された。限界支払意思額に関する分析結果から、危険回避度が少なく、医療サービスを信用しない住民に対しては、小口医療保険の適用は難しいが、より危険回避的で医療サービスを信用している住民は、保険を受け入れる可能性が高いことが示された。

3. おわりに

本学会は、本年 8 月に国際ワークショップⅡを開催します(日程、会場、申込等については、学会 HP <http://a-rafe.org/2/2/435> で確認ください。申込み締切 7 月 14 日)。また、10 月 14 日に東京農業大学で開催される大会で、国際ミニシンポジウムの開催を予定しています。多くの会員による積極的な参加をお願いいたします。

(国際化担当理事)

3. 2018年度近畿支部大会のご案内

下記の要領で、2018年度地域農林経済学会近畿支部大会を開催いたします。今年度は、恒例の若手研究者による個別報告に加えて、地域セッション「農業体験農園の可能性を考える」を開催いたします。会員の皆様には、若手研究者の育成という観点からも積極的なご参加をお願い申し上げます。本支部大会は、非会員の方にも開放しておりますので、お誘いあわせてご来場下さい。皆様の多数のご参加をお待ちしております。

記

日時：2018年7月28日（土）13:00～17:00（開場は12:30～）

場所：岸和田市立浪切ホール4階研修室1

〒596-0014 岸和田市港緑町1-1

<https://namikiri.jp/access/index.html>

*南海本線岸和田駅から徒歩約12分

参加費：無料（懇親会費は別途）

問合先：和歌山大学食農総合研究所 辻和良

〒640-8510 和歌山市栄谷930

TEL: 073-457-7750 FAX: 073-457-7751

E-mail: tsujik@center.wakayama-u.ac.jp (@は半角に修正して下さい)

会場設営の関係で、お手数ですが、参加ご希望の方は、7/23（月）午後5時までに上記問合せ先までご連絡下さい。その際、懇親会への参加につきましてもお知らせ下さい。



2018年度近畿支部大会プログラム

12:30～ 開場・受付開始

13:00～13:10 開会の挨拶（福井清一会長）

【地域セッション】

農業体験農園の可能性を考える

13:10～13:15 セッション開会の挨拶・趣旨説明

13:15～13:40 都市農業に果たす農業体験農園の役割と課題（仮題）

藤井 至（和歌山大学観光学部）

13:40～14:00 農業体験農園に対するJAわかやまの取り組み 池田信義（JAわかやま）

14:00～14:20 議論

（14:20～14:30 休憩）

【個別報告】（報告20分・質疑10分）

14:30～15:00 離島産地における農協の役割と社会的意義に関する研究 大坪史人

（広島大学大学院生物圏科学研究科）

15:00～15:30 公設試と外部専門家チームの連携による新たな日本酒の開発ーネットワーク研究の視座からの検証ー 西濱健太郎

（広島県立総合技術研究所農業技術センター）

（15:30～15:40 休憩）

15:40～16:10 農業分野における障害者就労のための作業環境整備の検討 中本英理

（農研機構・西日本農業研究センター）

16:10～16:40 大規模稲作経営の畦畔管理に関する会計学的考察ー畦畔管理手法の分類と市場形成の可能性ー 木原奈穂子

（神戸大学大学院農学研究科）

16:55～17:00 閉会の挨拶、かたづけ

終了後

【懇親会】（希望者）

*ふるってご参加ください。

場所：未定

会費：3,500円程度（学生は2,500円）、学生報告者は無料

（近畿地区理事）

4. 学会賞推薦締切の延長

2018年度学会賞・学会奨励賞、および特別賞の推薦募集の締め切り日を下記の日付まで延長いたします。会員の皆様には、改めて積極的にご推薦いただきますようお願いいたします。

記

提出締切日：2018年7月10日（火）（必着）

なお、募集の詳細および推薦様式等は、学会HPの「ホーム」→「お知らせ」欄をご確認ください。

（庶務担当理事）

★編集後記

ニューズレター第15号をお届けします。本ニューズレターは、紙媒体による学会誌の廃止にともない、それに代わる会員各位への情報提供と会員相互の交流をめざして開始されました。今号では、去る3月に開催された国際ワークショップの報告が掲載されています。結果的に、留学生による海外を対象とした報告が多くなっていますが、日本を対象とした研究の英語による発信が求められている折から、日本人のとくに若手の研究者の皆さんによる積極的な参加が期待される所です。また、7月には和歌山大学のホストにより、近畿支部大会が岸和田市で開催されます。和歌山までは遠かろうというご配慮をいただきました。こちらへもふるってのご参加をお願いいたします。

会員相互のよりよいコミュニケーションにむけて、皆さまからのご意見やご要望、ご提案をお待ちしております。組織・広報担当常任理事（秋津元輝 akitsu@kais.kyoto-u.ac.jp、または、中村貴子 taka@kpu.ac.jp）まで、積極的にお知らせ下さい。（M.A.）

会員情報の確認・修正について

オンライン会員管理情報システム（以下、e-naf）を導入し、会員ご自身でオンラインにて登録情報を更新していただくことになりました。

まだ登録情報の更新がお済みでない会員には、昨年12月末に特別に別便にて会員IDと初回パスワードを再度お送りしております。それらにより下記アドレスにアクセスして頂き、会員情報の確認・修正をお願いいたします。下記アドレスへは学会ホームページのホーム画面より簡単にアクセスが可能です。また、所属や身分、住所等が変更した会員におかれましても、随時更新をお願い申し上げます。

<https://www.e-naf.jp/ARFE/member/login.php>



地域農林経済学会ニューズレター 第15号

発行日：2018年6月15日

ARAFE Newsletter No. 15

June 15, 2018

発行者：地域農林経済学会常任理事会（組織・広報担当）
